

# いのちを学ぶ

南九州大創立50周年

< 6 >

2015年11月、南九州大は、農業の近代化を目指すベトナム北部のナムディン省と人材育成や技術交流などで連携する合意書を締結した。県とタッグを組み、同省の主要産業である農業の発展をサポートする。

同省ではコメや落花生などの生産が盛んだが、土壌や品種の改良が進まず、価格が伸び悩む問題を抱える。課題解決のため、交流があった同大学を介して14年、県に協力を要請があり、互いに現地調査や協議を重ねて連携に至った。

## 越ナムディン省との連携

同大学は食品加工などに携わる人材を育成するため、合意書締結に先立ち15年4月から、同省からの留学生受け入れを宮崎キャンパス(宮崎市)で始めた。現在、健康栄養学部・食品開発科学科に4人が在籍している。

同科は加工食品の研究開発に力を入れており、県内企業などと協力して菓子や酒類なども開発。ベトナムに芋焼酎の製造会社設立を目指す留学生第1号の3年生グエン・バン・カンさん(27)は、「実習を通して発酵から貯蔵まで製造過程を学べ

## 留学生育て即戦力へ



長谷川理事長(中央)と語りながらキャンパスを歩くグエンさん(右)らベトナム、ナムディン省からの留学生。宮崎市の南九州大宮崎キャンパス

強熱心で成績も優秀。実学に重みを置く本学で学んだ知識と技術を本國で生かしてほしい」と期待を込める。グエンさんは卒業後、県内の焼酎メーカーに数年間勤務して本格的な技術を身に付けてから帰国する予定だ。

長谷川一朗理事長は「将来的には他学科を含め、ベトナム全土やアジア各地からの留学生を受け入れられるよう学内体制を整えたい」と語る。帰国して即戦力となりうるリーダーを育成するには卒業後の援助も大切との考えから、「県や食品関連企業との連携を強化して、多くの人材を育て

る意義は大きい。将来は「させたい」と意欲を見せる。地元産のイモで焼酎を造る。同学科長の中瀬昌之教授は、「留学生は皆、勉

こと母國の農業を發展に寄与したい」と前を見据える。(中村和彦) おわり